まご　と　じいじ

もりの　すいきん

しょうがく　いちねんせい

れいわ　よねん　しがつ

きょうから　しょうがく　いちねんせいになったよ。
ピカピカのランドセルが　うれしいな。
ひらがなを　よめるようになったよ。
カタカナも　よめるようになったよ。
としょしつの　ほんも　すこしよめるようになったよ。
まいつき　すこしずつ　かいていきたいな。

れいわ　よねん　ごがつ

まいにち　くらいニュースが　おおいので　パパに　ゆめのある　はなしを
よみたい　といったら　じいじに　おねがいするよう　いわれた。
じいじは　にこにこして　ひきうけてくれた。
はやく　よみたいな。

はじめに

わかばが　めばえるように　しょうがっこうでの　せいかつが　はじまったね。
くらいニュースばかりなので　ゆめのある　はなしを　かいてほしい　というから　じいじが　すこしずつ　かいてあげよう。

こどもの　くに

こどもの　くにには　こっきょうが　ないのだよ。
こっきょうは　おとなが　つくったものだからね。
でも　たくさんの　ちいきに　わかれているから　たくさんの　しゅるいの　ことばが　あるのだよ。
いまは　にほん　という　ちいきで　にほんごで　かいているのだよ。
にほんごは　とても　むずかしいので　ほかの　ちいきの　こどもたちが　いっしょうけんめい　しゃべる　にほんごを　よくきいてあげようね。
おたがいに　ことばを　おしえあえば　すぐに　なかよくなれるよ。

れいわ　よねん　ろくがつ

じいじが　こどもの　くにを　かいてくれた。
おとなが　つくった　こっきょうは　こどもの　くにには　ないのだから　たくさんの　ちいきの　こどもと　ともたちに　なりたいな。

バベルの　とう

おおむかしに　にんげんは　てんにも　とどくような　とうを　つくったんだよ。
ところが　かみさまの　いかりに　ふれて　ことばを　バラバラにされてしまったんだ。
いまでも　せかいの　ことばは　ななせん　いじょうの　しゅるいに　わかれているんだよ。
けんかばかりしていると　かみさまの　いかりに　ふれて　しゃべれなくなると　いけないから　きをつけようね。

れいわ　よねん　しちがつ

じいじが　バベルの　とうを　かいてくれた。
たくさんの　ちいきで　バラバラな　ことばを　しゃべっているんだね。
おなじ　ことばを　しゃべるように　なったら　べんりだな。

エスペラントご

おなじ　ことばを　しゃべるように　なったら　べんりだとは　よいところに　きがついたね。
いまから　ひゃくさんじゅうねんほど　まえに　エスペラントご　というげんごが　つくられたんだよ。
いろいろな　げんごを　しゃべる　ひとたちが　にばんめの　げんごとしてつかえるように　つくられたんだよ。
そんなに　おおくの　ひとが　つかっている　わけでは　なさそうだけどね。
じいじも　にじゅうねんほど　まえに　エスペラントごの　にゅうもんしょを　かって　べんきょうしてみたけど　もう　すっかり　わすれてしまった。
また　べんきょうしてみる　ことに　したよ。

れいわ　よねん　はちがつ

じいじが　エスペラントごを　かいてくれた。
おなじ　ことばを　つかえるように　つくったなんて　すごいね。
じいじは　にじゅうねんまえに　かった　にゅうもんしょを　よんで　ニコニコしているよ。
ぼくも　たんさん　べんきょうして　いつのひか　じいじに　エスペラントごを　おしえてもらいたいな。

ゆめ

ゆめのある　はなしを　かいてほしい　ということで　はじめたのだが　べんきょうの　はなしになってしまったので　ゆめについて　かいてみようね。
ゆめは　かなえるために　みるものなのだよ。
「あきらめなければ　ゆめは　かなう」といった　ひともいるね。
たしかに　かなえるために　もくひょうを　たてるといいね。
ゆっくりでいいから　あきらめずに　もくひょうに　むかっていけば　ゆめは　かなうはずだよ。

れいわ　よねん　くがつ

じいじが　ゆめについて　かいてくれた。
かなえるためにみる　ゆめ。
しょうらい　なりたい　しょくぎょう　とかかな。
まだ　はっきりとは　きめられないけど　せんそうのない　へいわな　よのなかになるような　しごとが　したいな。

へいわ

せんそうのない　へいわな　よのなかになるような　しごとが　したい　という　りっぱな　ゆめを　もっているとは　うれしいね。
こどもの　くにには　こっきょうが　ないので　なかよくしていれば　へいわになれるはずだよ。
そのまま　おとなになれれば　へいわなままなのにね。
こどものくにでは　ぼうりょくを　つかわないように　きめられるといいね。

れいわ　よねん　じゅういちがつ

じゅうがつは　かくのを　おやすみしてしまった。
じいじが　へいわについて　かいてくれた。
ついつい　かんがえすぎてしまった。
こどものくにで　ぼうりょくを　つかわないように　きめるには　いろいろな　ちいきの　こどもたちが　はなしあわないと　いけないね。
でも　なんさいになったら　こどものくにに　すめなくなるのかな。
こっきょうが　できてしまうのは　かなしいな。

おとなの　くに

こどもの　くにには　ちゅうがっこうを　そつぎょうするまで　すめるのだよ。
そのあと　すこしずつ　おとなのくにに　うつっていくのだよ。
おとなの　くにには　こっきょうが　あるので　わたしたちは　にほん　という　くにに　すんでいることになるね。
こどもの　くにで　なかよくなった　ほかの　ちいきの　こどもたちは　ほかの　くにの　おとなたちに　なっていくんだ。
ざんねんだが　おとなたちで　せんそうを　したりするから　こどもたちにかなしい　おもいを　させてしまうね。
こころある　おとなたちは　ないているのだよ。
すまない　すまないと　ないているのだよ。
でも　なんとかして　へいわな　せかいにしたい。
それが　じいじの　ゆめなのだよ。

れいわ　ごねん　いちがつ

じゅうにがつも　かくのを　おやすみしてしまった。
じいじが　おとなの　くにについて　かいてくれた。
こどもの　くにには　ちゅうがっこうを　そつぎょうするまで　すめるらしい。
でも　そのあとは　おとなのくにに　うつっていく。
ほかの　ちいきの　こどもは　ほかのくにの　おとなに　なっていく。
おとなが　つくった　こっきょうで　わけられていく。
じいじは　へいわな　せかいにしたいと　がんばってくれている。
ぼくたちも　ずっと　なかよく　くらせるように　がんばろう。

ふろしき

ふろしきは　ものを　つつむために　つかうのだよ。ビニールや　ぬのでできているね。
じいじは　おおきな　ふろしきで　せんそうしてくる　くにを　つつんでしまえないかと　かんがえているのだよ。
ぬのではなく　せんそうしてくる　くにの　ことばで　できた　ふろしきなのだよ。
ふろしきに　へいわについて　はなしてもらえば　せんそうを　やめてくれるかもしれないね。
そんな　ふろしきを　じいじは　すこしずつ　つくって　いきたいのだよ。

らいげつから　しょうがく　にねんせいだね。
しょうがく　いちねんで　ならった　かんじが　つかえるよ。たのしみだね。

れいわ　ごねん　さんがつ

じいじが　ふろしきについて　かいてくれた。
せんそうしてくる　くにを　ふろしきで　つつんでしまおうなんて　じいじは　かんがえているんだね。
おとなのくにで　それができたら　ぼくたちが　おとなになっても　へいわでいいね。
へいわになるために　おとなが　がんばってくれるのを　おうえんしていこう。
らいげつから　にねんせいになるよ。
いちねんせいで　ならった　かんじを　つかえるようになるから　うれしいな。

小学二年生

はじめに

小学二年生になったね。おめでとう。
ひらが名やカタカナのほかに一年生でならった　かん字　八十字をつかえるね。
じいじも小学校でならう　かん字の本をかって　べんきょうしながら　かいているんだよ。たのしいね。
こん月は　じゆうに　かいてごらん。

れいわ五年四月

きょうから小学二年生になったよ。
ピカピカのランドセルの　おとうとや　いもうとが　できて　うれしいな。
ひらがなやカタカナのほかに　一年生でならった　かん字　八十字も　使えるようになったよ。
としょしつの本も　よみつづけていこう。

みこし

あちこち　まつりで　にぎわっているね。
大ぜいで　みこしを　かついでいる。
おもい　みこしも　みんなで　かつげば　たのしそうだね。
みんなで　力をあわせて　なにか出きるといいね。

れいわ五年七月

じいじが　みこしを　かいてくれた。
じいじも　ことしの　まつりで　みこしを　かついで　たのしそうだった。
ぼくも　おとなになったら　みこしを　かつぎたいな。
なつは　花火大かいや　ぼんおどりもあって　大ぜいで　たのしいな。

なが生き

さいきん　じいじは　なが生きしたいと　おもうようになった。
小学二年生よりも　六十年ながく　生きているのだけどね。
もっと　いろんなことを　かきたいのだよ。
もっと　きれいに　かきたいのだよ。
ながいきすれば　たくさんの本を　よむことが出きるからね。
きれいに　かかれた文を　見つけることも出きるからね。

れいわ五年九月

じいじが　なが生きについて　かいてくれた。
じいじは　ぼくより　六十年ながく　生きているのだけど　まだまだ生きてたくさん　かきたいようだ。
ぼくも　じいじが　かいた　本を　たくさん　よみたいから　じいじに　なが生きしてもらいたいな。
ぼくが　六十さいになるころ　じいじは　百二十さいになるよ。
じいじは　それよりも　なが生きしたいようだ。
ぼくも　なが生きしながら　じいじを　おいかけよう。

日本ご

日本人は日本ご　という　おなじ　げんごを　つかっているね。
これは　とても　べんりなことで　おかげで日本人どうしの　かいわが　つうやくなしで　わかりあえるんだ。
ただし　べんりなものだから　ついつい　くだけた　いいかたになってしまうようだね。
じいじは　もともとあった　日本ごの　うつくしい　ひょうげんを　学んでみたくなった。
いっしょに　うつくしい　ひょうげんを　見つけられるといいね。

れいわ五年十一月

じいじが　日本ごについて　かいてくれた。
ともだちとも　じゆうに　はなしが　出きるのは　おなじ日本ごを　つかっているからなのだね。
ときどき　ともだちと　けんかしそうになると　ついつい　らんぼうな　いいかたに　なってしまう。気をつけよう。
じいじと　いっしょになって　うつくしい　いいかたを　見つけていきたいな。

やく草

びょう気を　なおすことが出きる草を　やく草というのだよ。
とても　やくに立つ草だね。
なるべく　おおくの人が　つかえるように　そだてているようだね。
じいじの　こう校の　どうきゅう生で　やく学を　べんきょうするために
大学に　すすんだ人がいたが　どうしているかな。
やく草を見つける人もいれば　そだてる人もいる。
草を見るのが　たのしくなるといいね。

れいわ六年三月

じいじが　やく草について　かいてくれた。
気をつけて　草を見るようになったけれど　やく草を見つけられなかった。
でも　さむい　ふゆも　かぜが　ふきつける中　たえている草は　たくましいな。
ぼくも　たくましく　生きたいな。

おわりに

やく草の　はなしは　むずかしかったようだね。
四月からは　小学三年生だね。
二年生でならった　かん字　百六十字も　つかえるようになり　たのしみだね。

小学三年生

はじめに

小学三年生になったね。おめでとう。
ひらが名やカタカナのほかに一年生でならった　かん字　八十字と　二年生でならった　かん字　百六十字をつかえるね。
ゆめの話を　じいじが書くのを　まっていたかもしれないが　自ゆうに　書いてごらん。

れいわ六年五月三十日

四月から小学三年生になった。
じいじが　ゆめの話を書いてくれるのを　まっていたら　自ゆうに　書くようにとのことだった。
じつは　自ゆうに書くのは　とくいではない。
じいじが書いてくれる　ゆめの話を読んで考えるほうが楽しい。
また　ゆめの話を　じいじに書いてもらいたい。

自ゆう

自ゆうに書いてごらん　と言われて　戸まどったようだね。
自分でテーマを見つけなければいけないからね。
でも　自分の思う通りに出来るということは　す晴らしいことだね。
ゆめが　かなうかもしれないね。
今でこそ　自ゆうになっているけど　自ゆうになるために　大ぜいの人がど力してきたのだよ。
自ゆうに出来ることを楽しんで　のびのびするといいね。

れいわ六年八月十六日

じいじが　自ゆうについて書いてくれた。
生まれてきた時から自ゆうに生活しているから　あんぜんと同じで　空気のように　あって当たり前としか考えていなかった。
大ぜいの人のおかげで　自由でいられるのだね。
いろいろ考えると　むずかしいけど　書いてみると　すっきりするね。
ますます自ゆうになった気がする。